

「隧道が語る森田庄兵衛の新和歌浦開発事業」

武内雅人

新和歌浦には明治44年(1911)に竣工した煉瓦造りの隧道が二つある。これらは、森田庄兵衛が周遊道路用に建設したものといわれてきたが、第二隧道の先は行き止まりで、どこにも通じていない。そこで、構造を調査・検討したところ、隧道は路面電車用のものであることがわかった。隧道内に遺された架線設備からみると、運行予定の電車は、当時、和歌山市内を運行していた車両ではなく、南海鉄道所有の車両であった可能性が高い。

森田の事業についての紀伊毎日新聞の記事や夏目漱石日記から、第二隧道を抜けた山腹に、「運動場」と称した分譲別荘地造成の工事が始まっていたが急遽中止されたことがわかる。路面電車は別荘地へのアクセス用であろう。

森田の事業用地の利用状況をみると、分譲別荘地開発が事業の中心であった可能性が高い。だが、分譲別荘地はできず、路面電車が走ることはなかった。森田の新和歌浦開発事業には、頓挫した知られざる計画があったのである。

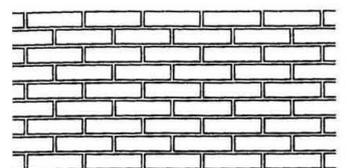
当時の和歌浦の観光開発を巡る動きは複雑であった。南海鉄道、和歌山水力電気、地元の旅館、それぞれの思惑が景観保存運動と絡み合い、事態は流動的に推移していた。そこに、南海鉄道との提携を目論む森田が参入していったのである。

森田が、分譲別荘用地を「運動場」と称し、電車については運行計画すら公表しなかった確かな理由は解らないが、行き先のない第二隧道と一度も通電しなかった架線の残骸は、森田の夢の象徴物で、その背後に和歌の浦の景観保全運動と近代的観光開発が織りなす地域史が見えてくる。

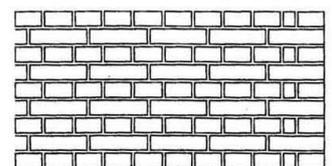
古色豊かな煉瓦隧道は、私たちの心にノスタルジアを掻き立てると共に、これにまつわるヒストリーに誘う力がある。観光資源としての魅力もある歴史教育の重要な素材であろう。第一・第二隧道は、再開発を契機にした新和歌浦の地域創りに有効に活用されることが望まれるが、そのためには朽ちかけた隧道の保存策が急がれる。

西暦	和暦	出来事
1862	文久	2 森田勝之助誕生
1879	明治	11 勝之助(慶応義塾入塾)
1882		15 勝之助(帰郷 自助義塾開講副塾長就任)
1883		16 勝之助(家督・庄兵衛名を継承)
1887		20 庄兵衛(紀陽新聞設立 自助同盟設立 会長就任)
1889		22 伊都郡役所騒動 自助同盟解散
1895		28 県立和歌公園設置
1897		31 南海鉄道(難波一和歌山北口開通)
1899		33 紀和鉄道(和歌山一五条開通)
1902		36 南海(難波一和歌山市駅開通)
1097		40 和歌山水電(日高川に水力発電所設置)
1909		42 南海(浪速電気軌道合併) 和歌山水電(市駅一紀三井寺開通)
1910		43 箕供山エレベーター開業
1911		44 森田(貴族院議員就任) 第一・第二隧道 夏目漱石来訪 和歌山水電(琴ノ浦に延伸)
1912	明治45/大正1	加太軽便鉄道(和歌山北口ー加太 開通) 和歌山水電(黒江に延伸)
1913	大正	2 加太軽便鉄道(和歌山口ー加太開通) 和歌山水電(和歌浦口一亀屋前開通)
1914		3 和歌山水電(和歌浦港に延伸)
1916		5 箕供山エレベーター撤去
1918		8 仙集館等開業
1923		12 関東大震災
1924		13 事業の破綻と森田庄兵衛の死去
1926	大正15/昭和1	南海遊園株式会社設立
1971	昭和	4 新和歌浦隧道開通

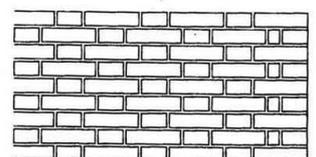
煉瓦積の種類



(d) 長手積み



(b) イギリス積み



(c) フランス積み